

学園聖句： 「光の子らしく歩きなさい」
(エペソ人への手紙5章8節)

建学の精神 EST. 1935 (昭和10年)

- ・キリスト教に基づく人格教育を行います。
- ・専門教科による職業教育を行い、有能な人材を育成します。
- ・自主独立の精神を養います。
- ・国際交流による国際理解教育を行います。

普通科

- 特進コース
- 普通コース
- 健康福祉コース
- 保育コース
- インターコース
- 一貫コース

看護科

- 看護科
- 看護専攻科

商業科

- 商業コース
- 美容専攻コース
- 製菓衛生師コース

特別進学コース

夏期勉強合宿

7月22日(水)～24日(金)の3日間、北九州市立玄海青年の家で夏期勉強合宿がありました。1年生は基本的な生活習慣と学習習慣の確立、2年生は学習習慣の確立と受験準備、3年生は志望校突破のための実力養成を目的に立て終日学習に励んでいました。



健康福祉コース

7月1日(水)～31日(金)までの間の13日間、介護職員初任者研修のための実習があり、2年生が受講しました。卒業と同時に与えられる資格で、学校と違った緊張感のもと外部講師の先生方の指導に熱心に聞いていました。



製菓衛生師コース

第8回貝印スイーツ甲子園九州沖縄地区予選出場

スイーツ甲子園とは、スイーツを通じて、全国の高校生たちに自己表現や、夢の実現のチャンスを提供したい。その想いをカタチにしたのがスイーツ甲子園です。全国を6ブロック(北海道東北、関東、東海信越、近畿北陸、中国四国、九州沖縄)に分け、フランス菓子研究家の大森由紀子先生が書類選考を行い、各6ブロックそれぞれ5チームを選出します。本校から「チャンピオナ」チームが出場し、見事書類審査を通過し、地方予選大会にて調理試験(テーマ作品・課題作品)、筆記試験に臨みました。残念ながら地区代表には選ばれませんでした。が、見事な作品を作りあげました。



作品名 膨らむ果実

「チャンピオナ」チームの

看護科・看護専攻科

7月27日(月)～8月7日(金)まで、3年生の老年看護臨地実習がありました。近隣の東筑病院をはじめ若松・宗像地区の6施設で行いました。



東筑病院での実習



私学展

8月22日(土)・23日(日)の2日間、小倉井筒屋パステルホールにて、第23回私立小・中・高校展が開催されました。毎年この時期に開かれ多くの保護者や小中学生で賑わいました。



なかまスクールフェスタ

8月8日(土)・9日(日)の2日間、なかまハーモニーホールにて、なかまスクールフェスタがありました。主に中間地区の高校を中心に学校紹介や各イベントが行われました。本校は、看護科・普通科美容専科コースの体験や茶道部による茶会を開きました。

募集定員(推薦・一般) 340名【普通科 150名/看護科・看護専攻科<五年一貫> 70名/商業科 120名】

推薦入試要項

学科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成28年 1月8日(金)～ 1月20日(水) 受付 午前9時～午後6時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後3時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

一般入試要項

学科	コース	出願期間
普通科	特別進学 普通 健康福祉 保育 インターナショナル※ 中高一貫	平成28年 1月8日(金)～ 1月27日(水) 受付 午前9時～午後6時
	看護科・看護専攻科<五年一貫>	※日曜日・祝日は除きます。
商業科	商業 美容専科(女子) 製菓衛生師	※土曜日は午前9時～ 午後3時までとします。

※インターナショナルコースは外国人女子留学生のみ募集

試験日	試験科目(基礎学力)	合格発表
平成28年 1月26日(火)	国語・数学・面接 特進・看護のみ 国語・数学・英語・面接	平成28年 1月28日(木)

試験日	試験科目	合格発表
平成28年 2月4日(木)	国語・数学・社会・理科・英語	平成28年 2月8日(月)

学校見学会(予定)

- ・ 学校紹介
- ・ 校内見学
- ・ 進学相談
- ・ 授業体験
- ・ クラブ紹介
- ・ 入試対策 等

第2回 9月19日(土)

第3回 10月17日(土)

第4回 11月14日(土)

「草創期の黒田藩と栗山大膳」黒田家と宇都宮家の抗争⑩

官兵衛も在鮮諸将の相談役として出陣します。長政の率いる黒田軍は四月、釜山の近くの安骨浦から上陸して、金海城を落とし入れ、北上します。五月初めには主都京城に入城、さらに北上を続け、六月には本隊と共に平壤を攻略拘ると云う、無抵抗の原野を行くが如く快進撃をしています。しかし、戦線の拡大と、長大化は日本軍にとっては不利となります。各地でゲリラ戦に悩まされ、また、飢饉による食糧の欠乏で戦意を失い、次第に劣勢となっていきます。さらに、文禄二年(1593)一月には明軍の本格的な参戦によって、平壤を奪回されると云う敗戦を喫し、日本軍の将兵にも次第と厭戦気分が漂ってきます。秀吉は六月末、講和推進派の小西行長の詐謀によって七ヶ条の講和の条件を提示、交渉に入ります。平和交渉の間も、南鮮四道の割譲を考えていた秀吉の意向を汲んだ清正らは、積極的に領有のための戦闘を継続しています。清正には撤退の意思は全くなく、また、一方、和平交渉も一向に進みません。八月には秀吉は名護屋から大阪に引き上げ、九月には在鮮の東国大名らを帰国させることにします。秀吉の七ヶ条の講和条件も日本側代表小西行長、明側代表沈惟敬によって勝手に変えられ、変えられた条件によって交渉が進められます。明は変えられた国書が秀吉の意向と考え、講話を進めることにして、明の正式な使者が来日して大阪城で秀吉に謁見したのは、慶長元年(1596)九月三日のことでした。

小田弘之著書「草創期の黒田藩と栗山大膳」より